

## 自由記述「学校運営に参画する方法」

【学校（学校運営協議会）】

○学校行事等学校の営みをもっと積極的に広報すること。（もっとオープンに、もっと保護者目線で）

・HPで授業に係る情報を発信し、保護者の興味を喚起する。（例：○○の単元ではつまずきが見られました。／道徳科で○○の価値について話し合いました。）

・HPは、画像を増やし、日々の生活で起きていることを積極的に更新して、学校での児童の様子がイメージできる工夫をする。

（現在のHPは、学校便りや学年便りの掲載のみで、日々の様子を窺えないのが残念である。）

・現在の様々なお便りは、子供の様子がよく分かるものになっているかについて見直し。

・寺西小学校PR動画や授業風景の配信・定期的なオンライン交流会開催、HPの充実、SNS等による画像付き情報の配信等、ICT機器の効果的活用を検討する。

・コロナ禍での新たな取組を企画していく姿勢が大切。

○学校行事を工夫して開催し、地域や保護者の方にもっと参加してもらうように努めること。

・懇談、家庭訪問、保護者会、PTA会合、授業参観、講演会等々、形態を工夫してどのような状況でも実施できる方法を模索してもらいたい。

・学校の日常生活を期間を設けて積極的に開放する。（オープン掃除,オープン給食,学校へ行こう週間　等）

※　行事等何もかも中止になり、もっと開催できるよう検討してもらいたかった。（安易に中止しているように感じられる。）

※　わくわく寺西フェスタ等は中止になったのに教育研究会を実施したことはおかしいと思う。

※　他の学校はもっと参観する機会があったようである。

※　1年生は1度も授業の様子を観ることが出来ていないことで不安があった。来年度は、普通の授業の様子をたくさん観たい。

※　PTCのような、子供と一緒に保護者が活動に参加できるような行事があることを望む。

※　保育園では「保育参加」という行事がある。各家庭の都合の良い日の午前中に、自由に参加できる仕組であるが、学校もこのような日を設ければ、より日常に近い雰囲気を与えられるのではないか。

○学校の取組を広く情報公開し、どこで参画できるのか、具体的な場面についての検討が必要である。

○保護者にしてみると、学校は気軽に行ける場所になっていない。サークル活動等、気軽に参加できる仕組み作りから検討してもらいたい。

○校内において挨拶指導をもっと十分に行わなければならないのではないか。（日々の積み重ね）

○保護者や地域の要望への学校が適切に対応がなされ、子供に変化が見られるようになることで、保護者の参学校運営への画意識が高まるのではないか。

○学校教育目標を保護者も地域住民も子供もよく理解できるように、学校がもっと広報することが重要。

（校内の目立つところへの掲示、HP内での広報の工夫、本アンケート内での明示（本校の学校教育目標「○○」を知っている。

○学校が保護者の参画意識について何か課題を感じているのであれば、具体的にどのような参画（参画意識向上）を求めているのか示すことが大事なのではないか。

○学校と保護者との関係が希薄な気がする。（遠慮なく伝え合える関係づくりを考えたい。）

・PTAボランティアの仕組を形成し、学校と保護者が気軽に会話できる場面の創出。

・登下校の見守りや見送りを先生方もしてもらえるとありがたい。（見守り・見送り活動で保護者との会話場面の創出。）

○「3時のおやつを創る会」「放課後畑仕事」等、子供達が喜び、保護者が学校に必然性を持って入っていける場の創出。

○「ベルマーク収集」の仕組再形成（PTAと児童会との連携活動の創出）

○アンケートに意見として記述した事が改善に繋がっているように感じられない。保護者の意見にもっと耳を傾けてもらいたい。

（子供たちが安全・安心に、学習意欲が低下しないよう授業に集中できるような教育環境を整えてもらえることを期待している。）

○他の保護者の方々との懇談会を開き、意見交換の場を早く設けてもらいたい。

（保護者同士が顔見知りになり、情報交換することにより多くの不安や不満が解消できると感じる。）

○LINEは必ず読み人が多い。有効活用を検討してほしい。

○働いている保護者でも参画しやすく意見等を伝えられる方法を考えてほしい。

（平日の行事は参加しにくいため、休業日の行事いくらか位置付けてほしい。）

○児童が全員授業に参加できるように指の本数で指名された数を示す等、授業の工夫に期待する。

○大人が、自分の子供だった頃の体験を再現させようとしても無理がある。時代に合った子供の体験活動を検討してほしい。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

【その他】

○子供の挨拶は大きな課題である。

（旗振当番で挨拶をしても返ってこない。子供から挨拶することがほとんど無い。）

○子供同士の呼び捨てが大変気になる。

○学校と外国籍児童の保護者を繋ぐために様々な工夫をしてくれていることに感謝している。

○地域行事等が行われていない状況にあって、今回のようなアンケートには答えにくい。

○「挨拶」「美化活動」「リサイクル活動」「花いっぱい活動」が学校参画に有効ではないか。

○SDGsの取組を展開するのが有効と考える。（「親子で学ぶ環境づくり」「現在の自分と未来のあるべき姿の親子協議」「身近に自分のできることの発見」　等）

○下校時に、大人の目がもう少し必要である。（歩道の白線をはみ出して歩く児童が多くいる。）

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

【家庭】

○本アンケートのように定期的に学校運営について考える機会を設ける。

○子供が卒業すると小学校との関りがなくなってしまう。ポ花や植木のお世話や草取り等、ボランティアとして参加したいが、学校の求めている事や、参加の仕組がないと動けない。（地域の回覧板や掲示板等を積極的に活用し、ボランティア要請をしてほしい。）

○子供への挨拶や声掛けを積極的に行うこと。

・日々の積み重ねが大切である。

・周りの大人に寺西の子をしてもらい、普通のあいさつのおかげで不審者等から守ってもらえるようになるぐらい徹底を図ることが必要。

○無理のない参加型にしなると、仕事・家庭との両立を考えたとき負担が大きくなってしまう。「1年間、これをやらなくては。」と思うと不安や負担感が大きくなる。

（環境整備作業やPTCを無理なく行えるようにして調整することを検討する。）

○短期間で取り組めるような内容を分担することで負担感も少なく積極的な参加が促せる。

○保護者の参加率の高い行事と低い行事があり、それぞれに分析が必要ではないか。

（参加率の低い行事については、参観日的な要素を取り入れ、子供も頑張っていることを知ってもらうような工夫があつてよい。）

○行事等がなくなり残念ではあるが、現在は、コロナ禍であり、現時点では子供が安全に過ごせるように配慮することが最優先である。

○PTA役員の時には、先生方とのコミュニケーションがあったが、それがなくなると担任の先生ぐらいしか話す機会がなくなる。学校と保護者が気軽にコミュニケーションを図れる関係になることが大切。

○コロナウィルスの感染状況が収束したら、親子クッキングやダンス等、講師を招いて楽しめるワークショップ等が行われることを期待している。

○保護者は子供や学校の事をもっと知ろうとするべきだと考える。

○子供は、年齢が上がれば上がるほど学校生活について簡単にしか語らなくなるため、学校に行く機会が少なくなれば、保護者は、学校の様子を知りにくくなっている。

○社会構造の変化がないと保護者に時間的・精神的余裕がないため学校運営の参画は難しいように感じている。

○PTA活動について、委員の人数に比して活動内容が少ない場合があるように感じる。適した人数配分にした方が良い。

（古紙回収が合理的な活動になっているのは良い方向性だと感じる。）

○「寺西塾の手伝い」「わくわく寺西フェスタの手伝い」「大地の響くらら公演の手伝い」等は、PTA役員から選出されているが、これらの協力をまとめたチーム作り（委員づくり）を行えば合理的だと考える。

○管理方法等課題もあるが、スーパー等で行われているリサイクル回収BOXを学校敷地内に設置できれば、地域の方も学校へ足を運ぶ機会が増える。

○子供に配付されているタブレット端末を、保護者も学校運営参画に積極的に活用すればよいのではないか。

○保護者が子供とともに学校に貢献する奉仕活動のような活動の機会を企画すればよいのではないか。

○PTAの役割にはどのようなものがあって、どのような活動をしているのかについて事前に周知されることによって保護者は参画しやすくなる。

○PTA行事の多くが中止になっていることで残念に感じている。

○子供と一緒に行事の参加について話ができることで、会話のきっかけが生まれる。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

【地域】

○小学生の参加できる地域行事の創出。

○地域が受け皿になる課外活動を増やすための取組が求められる。

○地域においてもっと挨拶が交わされることを期待する。（日々の積み重ね）

○地域の人からは「子供に挨拶をしても返って来ず残念な思いをした。」という声を聞く。不審者対策もあり「知らない人へ声をかけない。」という指導があったとも聞が、挨拶を交わすことについては、子供から働きかけるぐらいの方が良いのではないか。寺西の子が良い子だと感じれば、地域の人も参画意欲が高まると思う。

○子供発信で、地域の方と触れ合える機会を作ることも検討してみたらよいのではないか。

○金管バンドのお披露目に、地域の方がたくさん参加していただけたことを大変嬉しく感じた。地域で子供たちの活動を見守ってもらっていることの実感が湧いた。地域の人が興味を持ち、学校に行ってみたいと思える行事を積極的に企画することが大切である。

○寺西塾が活発になれば是非参加したい。

（寺西の芋堀体験に参加した際に、子供達の生き生きとした笑顔と学生ボランティアとの交流に触れ、元気をもらったことがある。）

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。

○保護者が、自分の子供が学校で体験したことを話せる機会を創出する。